

1 認定こども園斜里大谷幼稚園の教育目標

- 1 おおたにの子は、いのちを大切にします
- 2 おおたにの子は、素直にありがとうをいいます
- 3 おおたにの子は、みんななかよく頑張ります。

2 本年度の重点目標

- 幼保連携型認定こども園の教育・保育要領の改訂にともない、2点を重点課題としました。
- ①「全体の課題から、一人ひとりの特性や発達の課題にそくした指導を行う」ということから、一斉保育から一人ひとりに合わせた保育の実践に取り組む。
 - ②「園児の主体的な活動が確保されるよう、園児一人ひとりの行動の理解と予測に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。」ということで、環境設定保育に取り組む

3 評価項目に対する自己評価

<p>①保育の計画性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の教育理念と教育方針の理解 ・教育保育指導要領の理解 ・教育課程の編成 ・環境の構成 ・保育と計画の評価と反省 	<p>平成30年度は新要領の実現に向けた新たな取り組みとしてオランダのピラミッドメソッド教育法を導入し、外部講師による園内研修を各月で行い、保育者のピラミッドメソッド教師資格の取得に取り組んだ。</p> <p>また、保育内容としては、特に3つの要素を取り上げ、保護者にも資料配布や説明を行った。新しい保育環境と保育スタイルなので定着には至っていない。未実施の部分を含め、2から3年の間に、一通りの要素を満たすよう準備研究の必要を感じます。</p>
<p>②保育の在り方、乳幼児への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康と安全の配慮 ・幼児の見取りと理解 ・指導とかかわり ・保育者同士の協力と連携 	<p>雲梯落下によるケガが起り、安全の確保におけるリスクとハザードと幼児の運動遊びは「リスクへの挑戦」という公園遊具ガイドラインをあらためて学ぶ1年となった。また、園庭の大規模改修に取り組み、遊びの質やルールの視覚化に取り組み子ども自身のリスク管理能力の向上と、無線機による職員のリアルタイムの連携により空間的・時間的な死角の減少に取り組んだ。課題として、様々な遊具が増えたのでハザードを予防するためにも保守点検を手厚くする必要性が増した。</p> <p>幼児の見取りと理解については、ミマモリングソフトを導入し、こどもを印象だけで判断するのではなく、各発達を細かくチェックすることで、1人の子どもの多面性を確認できるようになった。また保護者との懇談にも発達資料を提示できるようになった。今後、ミマモリングの効果的活用方法を研究する必要性を感じる。</p> <p>保育者同士の連携体制は、まず、園内研修で保育観の共通理解を育み、リーダー会議(主幹保育教諭と副園長)を毎週実施し、1号認定担任、2号認定担当(にこにこ)、3号認定(あいあい)ごとに、定期的な会議を重ねている。今後は、3号認定は別棟での保育ということもあり、3歳児クラスへの自然な接続が課題となる。</p>

<p>③保育者としての資質や能力・適正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家としての能力・良識・義務 ・組織の一員としての在り方 ・保育の楽しみ・喜び ・周りを感じ取れるアンテナ 	<p>5回の園内研修を実施し、外部講師に保育現場を確認してもらい、課題や取り組みについて考え保育者の技術や姿勢を学ぶ1年となった。また、北海道で行われたキャリアアップ研修や京都や東京などの研修に各保育者が参加し、他の地域の保育者と学びを共にすることが出来た。町外・道外への研修参加は、日本の保育の流れを感じ取るためにも重要なので今後も続けたい。組織の一員としての在り方については、お互いのポジションに対する理解は経験的にも難しいと感じているが、おおかまに相手のポジションを尊重しあう関係となっている。子どもたちと同様に、上下関係や過指示に基づく組織ではなく、質の向上は前提となるが、保育士の個性が生かされるような体制づくりを進める必要がある。</p>
<p>④保護者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信と受信 ・協力と支援 ・守秘義務の遵守 ・対応上のマナー・良識 ・クレームへの対応の仕方 	<p>情報については、保育スタイルの変化や園庭の大規模改修など変化の多い1年でした。発信はしたが、保護者は、自分の目で確かめるまでは不安感が膨らんでいった。今後は、安定的な保育に努め、本園の保育に対する理解の浸透を図っていきたい。また、連絡が遅くなる場面があった。早めの連絡に努めなければならない。今後も、ホームページでのブログの更新など透明性の高い保育の実現を目指します。</p> <p>保護者の協力と支援については、父母の会活動は三役とクラス委員を中心に活発に行われた。共働き世帯も増加し、負担の軽減にも取り組まなければならないが、その一方で、今日、全国的に保育園や認定こども園で問題となっている保護者の孤立化でも、父母の会の親睦活動が予防活動になっている。良い面を大事していければと思う。</p>
<p>⑤地域の自然や社会とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然と人々とのかかわり ・小学校との連携 ・地域への開放と支援 	<p>地域については、ねぶた祭りへの参加、やすらぎ慰問、声掛け郵便などの活動を継続することが出来た。小学校との連携については、教育支援委員会や教師間の引継ぎや給食の試食会、就学前の体験学習など斜里町主体で行われている。課題として、子ども同士の交流が不足している。</p>
<p>⑥研修と研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修研究への意欲と態度 ・教師としての専門性の向上 ・遊具教材に関する研修研究 ・園内環境に関する研修研究 ・今日的課題に関する研修研究 ・自らを高めるための学習 	<p>保育内容や保育実践について多くの研修を行った。平成29年度に玩具コーディネーター資格取得研修をしたが、今年度は行わなかった。主体性を重視する保育では重要な要素なので研鑽を深める必要がある。また、障害児保育についての学びが不足している。研修や障害児保育の充実している園(美幌大谷など)の保育指導や現場見学などが必要だと感じている。体制の充実を含め中期的な課題として考えています。また、仏教園として仏教を通じて、現代の課題や人生観や自然観なども学びたい。</p>

4 次年度以降に取り組む課題

- ・今年度の取り組みを引き続き継続し定着化をすすめる。
- ・今年度取り組みめずに終わった、ドキュメンテーション(プロジェクト活動)について取りまとめ、実践できる状態を目指す。
- ・次年度より0歳児の受け入れが開始するので、0歳児から2歳児までのクラスの丁寧な保育と、これから目指すべきより良い乳児保育のビジョンを研究する。